

小学校 第3学年 道徳科 学習指導案

東京都板橋区立北野小学校
主任教諭 山中 麻衣

主題名 こまっている人のために

教材名 27 手伝う心(1時間)

内容項目 B 親切、思いやり

本時のねらい ひろみさんを見守る「わたし」の行為について体験的に学ぶことをとおして、「わたし」とひろみさんの気持ちを理解し、相手の状況や気持ちを考えて行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

指導時期 2月ごろ

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

「親切」について考えるとき、児童にとっては、「〇〇してあげる」ことを親切として捉えることが多く、相手の立場になって、気持ちを考えられていないことがある。そのため、「指導者用デジタル教材」を用いて自分の考えを整理したり、視覚的な支援をしたりすることで、自分の考えていた親切が、相手にとって本当の親切なのかを見つめ直せるようにしていきたいと考える。

導入では、児童たち自身が親切について考える時間をとる。それぞれが親切にされた経験や親切にした経験を思い出しながら、考えられるようにしていく。その際に「指導者用デジタル教材」にある「思考ツール」の「ウェビング」を活用する。上半分に考えたことを記入させ、下半分はあけておく。

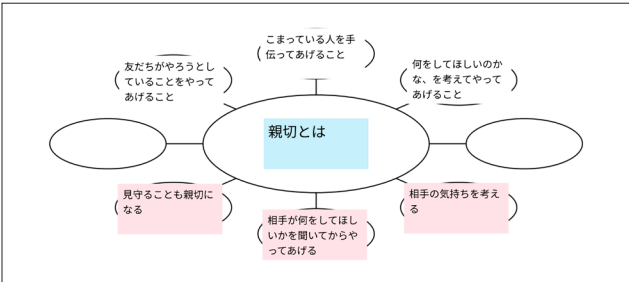
終末では、導入で使用した「ウェビング」を再び見ながら、親切について改めて考えたことを記入する。授業の最初に考えていた親切が、相手にとって本当の親切になるのか、ということを考えたり、比べたりしながらまとめていくことができ、考えがよりいっそう深まることが期待できる。

また、展開では、教師の範読のあとに実際に役になりきって演じてみる。その際、演じる前には「指導者用デジタル教材」の「動画」で演じる場面を確認することができるため、範読だけでは理解しきれなかった児童に対して効果的な支援となるだろう。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 <p>1. 「親切にする」とはどういうことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎：困っている人を手伝ってあげること。 ◎：友達がやろうとしていることをやってあげること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」にある「ウェビング」に、「親切とは」と記入しておく。 ●学習支援ソフトウェアを用いて児童に配り、考えを記入させる。

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<p>㊦：何をしてほしいのかを考えてやってあげること。</p>	
展開	<p>2. 役割演技をとおして、相手のことを思いやることの大切さについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教材の範読を聞く。(p.121の1行めまで) ●「わたし」とひろみさんの役を二人一組で演じてみる。 <p>【「わたし」役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦：本を取ってあげるね。 <p>【ひろみさん役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦：助かったよ。ありがとう。 ●演じて感じたことを発表する。 <p>【「わたし」役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦：親切にして気持ちがよかった。 ㊦：助けてあげられてうれしかった。 <p>【ひろみさん役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦：助けてもらえてうれしかった。 <ul style="list-style-type: none"> ●教材の範読を聞く。(p.122の5行めまで) ●「わたし」とひろみさんの役を二人一組で演じてみる。 <p>【「わたし」役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦：せっかく拾ってあげようと思ったのに。 ㊦：私がいけないことでもしたかな。 ●演じて感じたことを発表する。 <p>【「わたし」役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦：ひろみさんの気持ちを考えていなかったな。 ㊦：ひろみさんの「自分でやりたい」という気持ちを大切にしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ●教材の範読を聞く。(最後まで) ●「わたし」を演じてみる。 <p>【「わたし」役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦：……。 (ひろみさんが「手伝って」と言うまで見守る。) ●演じて感じたことを発表する。 <p>【「わたし」役】</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦：「やってあげよう」ではなく見守るって難しいな。 ㊦：ひろみさん、大変なのにすごいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」p.121の「動画」を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」p.122の「動画」を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ●「指導者用デジタル教材」p.123の「動画」を視聴する。

	活動内容	デジタル教材の活用
終末	<p>3.「親切にする」とはどういうことか、改めて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全体で「親切」についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●導入で書き込んだ「ウェビング」につけたす。 ●前後の違いがわかるよう、色を変えて書くようにする。 

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

●「思考ツール」の活用について

「親切」について考える際、「指導者用デジタル教材」にある「ウェビング」を使用することで、一人一人の考えを深めることができ、授業前と授業後で変容をみとることができた。今まで、他者に対して親切にしてあげていたことが本当の親切であったのかということを授業の終末に振り返って書くことで、児童たちは、親切にするということがどのようなことなのかについて、改めて認識することができた。

全体で発表する際には、「今までは○○だったけれど、授業で考えて○○のようになった」と、自分自身の考えを整理して発表することができた。これは、道徳の学習をととしての自分の考えの変容の結果であるので、とても効果的だった。一人一人が作成した「ウェビング」を全体で共有する際に、導入で書いた内容と終末で書いた内容が、配置や色の違いにより、ひと目でわかるようにしてあるので、発表者以外の児童にとっても、視覚的にとてもわかりやすく、「親切」について多角的な視点で考えることにつながった。

●「動画」の活用について

「やってみよう」では、児童たちが二人一組になり、演じてみる。その際、「動画」を視聴することで、どのように演じればよいのかを全体で確認することができた。「動画」を視聴することにより、児童一人一人が流れを確認することができ、活動にスムーズに取り組むことができたので、たいへん効果的だった。